

令和2年度シラバス

診療放射線科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
放射線安全管理学実習		実習	田中 悟・橋本 健 松本 貴・野沢井 隆	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
45 時間 (1 単位)		23 回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
放射線測定装置の操作法を理解し、放射線安全管理に関する知識を習得する。実習を通して放射線安全管理学に関する知識を習得する。実験A サーバイメータ (電離箱, GM管, シンチレーション) のエネルギー依存性 実験B ペルチェ冷却式霧箱による α 、 β 、 γ 線の観察 実験C ガンマ線のエネルギー測定 実験D 熱ルミネセンス線量計の特性				
授業の到達目標				
実験から得た測定値の整理、評価、考察方法について学び、実験報告書を記述する。放射線測定器の使用方法を習得することにより、診療放射線技師として放射線安全管理の必要性が説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	実習ガイダンス			
2	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
3	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
4	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
5	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
6	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
7	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
8	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
9	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
10	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
11	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
12	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
13	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
14	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
15	実験A・実験B・実験C・実験D・レポート準備と作成			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート	80%	レポート内容を評価する。		
小テスト				
平常点	20%	実習態度		
その他		正当な理由なくレポートの提出がない場合には不可とするので注意すること。		
自由記載		各項目後に課したレポートを受講態度を加味して評価する。		
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
新医用放射線技術実験 基礎編	田中 仁 他		共立出版	
アイソトープ手帳 11版	日本アイソトープ協会		丸善	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
実験説明は教室にて行うが、実験では各班に分かれて各実験室で実施する。				